



《JJN スペシャル》

### 医療者のための 伝えるプレゼンテーション

編：齊藤 裕之／佐藤 健一  
定価 2730 円（本体 2600 円＋税 5%）

#### 職場の日常にあふれる 「プレゼンテーション」

「プレゼンテーション」というと大そうな言葉にみえますが、意外と日頃から行なっていることなのです。研究発表や学習会はもとより、患者教育、患者オリエンテーション、医師への報告・指示受け、先輩への報告もみんなプレゼンテーションです。そういえば、少し身近なもののように思えてきませんか？ というより、私たちの現場はプレゼンテーションの機会にあふれ、それなしでは仕事をしていけないと言っているほどです。

看護師を対象にしたある調査で、仕事で自分の考えを説明することに苦手意識をもっている人は実に7割以上おり、「非常に苦手」な人は「話がわかりにくいと言われることがある」との結果が出ています。新人看護師が、医師に報告を行なったところ、全く要領を得ず、適切な指示が出なかったり、医師が怒り出したりする場面などに遭遇したことはありますか。これが、“達人”が報告すると、的を射た短い報告で納得のいく指示が受けられ、さらに医師との信頼関係も築くことができるようになります。いったい何が違うのでしょうか？

#### 看護師としての 能力を向上させよう

それは、「伝える力」なのです。では、その「伝える力」は何で変わるのでしょうか？ 新人看護師が「今のバイタルは……で、尿量が今回少なかったのですが、痛みを訴え

られて、手術の前に“痛みが一番怖い”とおっしゃっていたのを思い出し、鎮痛剤の指示を〇時に行なって、痛みはまだあるのですが、眠っていることも……家族の方が……でも呼吸が苦しそうで……」などと、物語調に報告しているのをよく聞きます。しかし、「鎮痛剤の追加」の指示がほしいのか、「呼吸困難」の指示なのか、「心不全」が疑われるのか、「脱水」なのか、「何を伝えたいのか」が分かりません。ここでは、伝える目的と方向性を定める必要があります。

講義や研修会であれば、そのテーマが目的にあたります。テーマをもったら最後までそのテーマにこだわり、それを達成できたかどうかにこだわる。そうすることで、目的に到達する方法を考えやすく、散漫な印象に留まらず、確かな手応えも感じられます。講義や研修会では特に明確なテーマをもつことが重要です。

本書では、現場以外（研究発表・講演・勉強会など）のプレゼンテーションについて書かれていますが、目的とすることに、目標をもって「伝えること」を軸に解説されています。「伝える」ためのゴールの決め方、コンテンツ（内容）やプロセス（進め方）のノウハウ・具体例、シミュレーションまで一貫して「伝える」ことにこだわっています。

「伝える力」を磨くことは、看護師としての能力を磨くことでもあります。人前で話さなくてはならなくなった方、自分の講演をレベルアップさせたいと思っている方におススメの本です。

大西 晶子

京都第二赤十字病院看護部